

MEDICA 岡山医療健康ガイド メディカ Vol.14

変わる病院

④ 光生病院(岡山市北区厚生町3の8の35)



中心市街に立地している光生病院。12階建ての医療福祉複合棟(黒)には特養、サ高住が併設されている

光生病院(1985年)は、岡山駅から車で約10分の中心市街に立地している。新たな医療福祉複合棟(黒)が完成して1年がたち、

西館は、新築建物の教育施設「コンクリート」併建て延べ約1万平方メートル、1階には南科1万床、在宅介護支援、訪問リハビリ、訪問看護、介護(ヘルパ)の拠点、交換ヘリスを設けた。2階は通院室(山陰国医薬科大学が運営)、3階は山陰大成学校(山陰国医薬科大学が運営)の併設。4階は階高10メートルの大ホール。4、5階は高層部分の特別ケアユニットが運営する特別ケアユニットとサビオス付き高齢者向け住宅サビオス9+11階建て、57室が西館に併設されている。

佐藤重雄理事長・院長は「サ



大本明美
看護部長



吉本祥謙
院長代理



松本祐蔵
名誉院長



佐藤重雄
理事長・院長

高住を同一建物に併設した病院に異なり、私たちは先へ進むとした。これと西館の持製で行っているショートステイ(利用定員1日当たり20人)と小規模多機能型住宅介護(登録定員40人)の両面事業は、先へ進む一例だという。

急速に進む高齢化社会で、急遽に変わるケアシステム構築の必要性が叫ばれた。従来の介護施設が受けきれなくなった施設で受けきれなくなった高齢者が受け入れられるよう、「医療」「介護」のサビオスを、一体的に受けられる体制を計った。西館建設は同ケアシステムを視野に入れられている。

西館は24時間対応の救急(2013年春開院)と老人病棟(2014年春開院)とを併設。外科など15の科を併設。2011年に岡山大学附属

2011年に岡山大学附属外科と共同で設立した神経回復センターは、同大のDDBS)を受け入れる。これに対し、術前・術後の検査とリハビリテーションを行ってきた。年間約1,000人の患者さんが当院に入院する。術前・術後の取り組みは、本来の業務「救急」とは根本的に異なる。救急と連携して連携し、安全に受け入れた高齢者の回復を促す体制を築いてきた。今年9月から開始した「認知症疾患(SAS)に対する買しある。治療体制を整えてきた。治療体制としては、医師、臨床検査技師、社会福祉士、臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士、住居の管理。一階の回復室、住居の管理

地域包括ケアシステムを視野に

「岡山医療健康ガイドメディカ」は毎月1回発行されています。次回は10月15日発行です。

本誌記事や過去の記事は山陰新聞社のホームページ(<http://iryosanyonin.co.jp>)でもご覧になれます。

2 光生病院 電話0866-2-24800(代)

写真 竹内健
文 楠木 肇

